

令和2年度 関係者評価書 (川南町立多賀小学校)
 評定 【4…期待以上 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

| 項目 | 評価指標及び 具体的目標 | 自己評価 | | 結果の考察・分析 および改善策等 | 関係者評価 | | 学校関係者評価委員の意見 |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 項目 | 総合 | | 項目 | 総合 | |
| Ⅰ 町民総ぐるみによる教育の推進 | 1 学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ○家庭学習の充実と推進 ○地域と連携した学習や行事の充実 ○地域人材及び素材の活用 | 2 | | ○ 感染症の感染拡大に伴う臨時休業日の長期化に伴い、家庭学習のより一層の充実を図る。 ・ 学校で準備する課題の確実な実施と見届け（家庭・学校） ・ 自主学習を行うための「家庭学習の手引き」の活用 ・ 学級通信等による啓発 ○ 自治公民館などとの情報交換や各種活動への参加協力を行う。 ・ 多賀ならではの地域行事への積極的参加 ○ 地域人材を計画的に活用し、各教科、領域など全教育活動を通じた授業や活動の充実を図る。（古墳・古戦場跡） ・ 地域学校協働活動推進本部の活用（人財【材】バンク） ・ 多賀在住の人財【材】の掘り起こしと積極的招へい | 2.8 | | ・ 本年度は新型コロナウイルスの関係で計画とおりに行かなかったのだと思う。今後には生かしてもらいたい。 ・ 新型コロナウイルス感染流行の中で、学校側の苦労が多かったことだと思う。今後も子どもたちのために教員の力を存分に発揮してもらえたら幸いである。 |
| | 2 家庭や地域の教育力の向上に努める。 ○挨拶と返事の地域ぐるみの推進 ○教育情報の発信と啓発 ○PTA組織の機能向上 | 3 | 2 | ○ 地域全体で挨拶を交わす雰囲気づくりをする。 ・ 挨拶する子どもの姿を地域にアピール（HPの活用） ・ 地域から得られる様々な情報（評価）の共有（懇談会の活用） ○ 新学習指導要領完全実施などの新しい教育活動の啓発をする。 ○ PTA活動と地域活動を学校教育に生かす。 ・ 家庭教育学級及びおやじ学級の活動の推進（子育てと親育ち） | 2.5 | 3 | ・ 以前より挨拶をする子どもが減った。挨拶に関しては、「挨拶は何のためにするのかということ」を発達段階に対応した内容で子どもたちに理解させることが大切である。基本的には、家庭教育が一番である。 ・ PTAの機能が活かされると教育力は向上する。 ・ 地域と児童のふれあいの場を創り出すための手段として公民館を利用して欲しい。 |
| | 3 開かれた学校づくりを推進する。 ○さまざまな機会を活用した学校情報の積極的発信 ○保護者、地域の方々の学校参観と訪問の推進 ○地域関係機関との連携 | 2 | | ○ 学校の取組についての情報発信と協働活動を積極的に行う。 ・ ホームページ、各種学校便り・学級通信の活用 ○ オープンスクール、学校参観日等の積極的な情報発信をする。 ○ 地域の関係機関と情報共有を積極的におこなう。 ・ 公民館・GBA（高齢者）・おやじ学級OBとの交流 ・ 地域見守り隊（青パト隊）との情報共有 | 2.5 | | ・ 新型コロナウイルス感染拡大の中、授業面での教師の努力と工夫を感じた。 ・ 地域住民に学校の取組を広く発信するには限界があるのではないか。オープンスクールを通じて広く発信して欲しい。 ・ 地域の人材を十分に生かし切れていない気がする。 ・ HPの活用が少ない。様々な立場の方や地域との交流が少ない。 |
| Ⅱ 生きる基盤を育む教育の推進 | 1 確かな学力を育む教育を推進する。 ○教職員の授業力向上と授業展開の工夫 ○学校全体での組織的な学力支援 ○ICTの技能向上と効果的な活用 ○読書の充実と新聞の効果的な活用 ○家庭学習の充実 | 3 | | ○ 日々の授業改善を行う。 ・ 授業の客観的相互評価（VTR及び模擬授業を活用） ○ OJTタイムを活用し教材研究ノートによる教師相互の学び合いを積極的に推進する。 ○ 授業や校務におけるICT機器の効果的活用を図る。 ・ 機器操作の習熟効果的活用のための技術の共有（校内研修） ○ 魅力ある図書館の環境づくりを行う。 ○ 「家庭学習の手引き」を基本とした具体的な家庭学習の内容を示す資料を作成し提示することで、家庭学習の充実を図る。 | 3 | | ・ 家庭学習の充実については、家庭環境の違いといった影響も大きいと思われる。 ・ 学力の向上は学校だけでなく、保護者・地域が一体となって取り組めば更に向上すると思う。 ・ 授業等の学習において、図書館の本をもっと子どもに活用して欲しい。 |
| | 2 豊かな心を育む教育を推進する。 （人権意識の高揚） ○相手の立場を思いやることのできる児童の育成 ○特別の教科道徳の授業実践と充実のための研修 ○いじめ、不登校ゼロへの生徒指導の充実 | 3 | 3 | ○ 全教育活動をととした一人一人の人権を大切に教育の充実に努める。 ・ 教職員一人一人の人権意識を高める研修の計画 ○ 道徳の研修を計画的に行う。 ・ 発問や板書の改善を基本とした授業の改善 ○ 全職員でいじめ、不登校の未然防止、早期解決のための情報を共有する。 | 3 | 3 | ・ 将来に渡り「笑顔」のすてきな人、思いやりのある人、優しい顔の人でいて欲しいと伝えたい。笑顔は誰でも持っている。お金もかからない。これからも小学生の笑顔を守ってあげたい。 ・ いじめ、不登校の実態は外部からは分かりにくい。 ・ 多賀小が取り組んでいる福祉体験学習等とおして、人権意識を育成して欲しい。 ・ いじめについては注意して見守って欲しい。 |
| | 3 健やかな体を育む教育を推進する。 ○体力テストの分析結果を基にした体力向上 ○基本的な生活習慣の徹底及び食育の推進 ○疾病治療の促進 | 2 | | ○ 実態に応じた体力向上の取組を行う。 ・ 昨年度の実態分析を基にした体力強化の工夫 【本年度は実施見送り】 ・ 日常、習慣的な運動の推進（体育・昼休み・家庭生活） ○ 基本的な生活習慣形成の重要性について家庭への情報提供を行う。 ・ 「早寝」「早起き」「朝ごはん」について、啓発の継続 ・ メディア（SNS・動画・ゲーム）の健康被害の情報の提供 ○ 疾病治療の促進のための取組を推進する。 ・ むし歯治療率の向上のための保健だよりの活用 | 2.8 | | ・ 動画・ゲーム等の被害や問題点については広くアピールしてほしい。 ・ 運動する習慣を身に付けさせることが大切だと思う。学校はそのような手立てを考えるべきだと思う。 ・ SNS等の子どもの使用率の把握をしているか。また、どのような指導をしているのか家庭や地域に知らせしてほしい。 |
| | 4 共生社会を目指す特別支援教育を推進する。 ○個々の実情の把握と必要十分な支援への取組 ○校内支援体制の整備 | 3 | | ○ 児童・家庭・地域の実態に応じた適切な対応をする。 ・ 家庭との連携強化と児童の実態の共通理解 ・ 特別支援コーディネーターを中心にした支援計画を作成 ○ 関係機関との連携の強化を行う。 （支援学校地域Co、エリアCo、SSW、SCや民生児童委員、町民健康課・福祉課など） | 3.3 | | ・ 支援学級に籍をおく子どもとそうでない子どもたちとの交流を通じたふれあいがスムーズでそれぞれの子どもたちに思いやりが感じられて素晴らしいと思う。 ・ 多賀小は支援学級の担当者に恵まれていると感じる。 |
| Ⅲ 自立した社会人、職業人を育む教育の推進 | 1 ふるさと川南に学び、誇りや愛着を育む教育を推進する。 ○総合的な学習の時間を通じた地域学習の充実 | 3 | | ○ 総合的な学習の時間の計画的運用を行う。 ・ 地域学校協働活動推進本部との連携 ・ 地域の文化財の学習素材化と人財【材】の積極的に活用 ・ 地域行事の意義を理解した積極的な参加 ・ 町歌の歌唱指導と各行事での歌唱 | 3 | | ・ 郷土愛を育むには、ふるさと川南をもっとよく知ることから始めるとよいと思う。 ・ 他の小学校の取組を知ると、もっと川南を知ることにつながると思う。 |
| | 2 キャリア教育を推進する。 ○学習の基礎となる「自ら学び、考え行動する力」の育成と望ましい勤労観、職業観の確立と自立 | 3 | 3 | ○ キャリアパスポートの事前準備を行う。 （令和3年度から完全実施） ・ キャリアパスポートの情報収集と本年度中の施行（特別活動の学級活動を中心とした運用） ・ 「各教科等の学ぶ意義」について関連付けた研修 ・ 生活と学習の関連が位置付けされた授業の展開（生涯にわたって学び続ける意欲の向上） | 3 | 3 | ・ キャリア教育は子どもたちに身近な親の姿を見せることから始まると思う。 |
| Ⅳ 魅力ある教育を支える体制や環境の整備、充実 | 1 教職員の資質向上に努める。 ○教職員の個々の授業力向上とOJTの推進 ○法令遵守の徹底と計画的な職員研修の実施 ○働き方改革の推進 | 4 | | ○ 教職員としての資質を向上させる。 ・ 4つのチェックポイントを基にした日々の授業の見直し ・ 同僚性（OJT）を生かした職員同士が学び合える環境の整備 ○ 教職公務員としての意識の向上を図る。（コンプライアンス研修） ○ 働き方改革を常に意識した働きやすい環境づくりを行う。 （勤務時間の管理、効果的・効率的な仕事の意識） | 3.8 | | ・ 学校は多忙な日々を送っている。地域と協働することにより、役割が分担でき、少しは軽減できると思う。 |
| | 2 学校における安全、安心の確保に努める。 ○登下校時の安全指導の徹底 ○校内及び校区内の安全整備 ○緊急時の避難体制の整備 | 4 | 3 | ○ 児童の安全安心な学校をつくる。（危機管理） ・ 登下校の安全確保（原則毎日、集団下校） ・ 職員による下校見送り（青パト隊と連携） ・ 学期末のこども110番の家庭の訪問（情報収集） ○ 月1回、安全点検の実施をする。（校内の危険箇所の整備） ○ 緊急時の避難体制の整備を行う。 ・ 行動マニュアルの整備 ・ 避難訓練の実施と避難体制の確認や改善（不審者侵入訓練、児童の引き渡し訓練【本年度は実施見送り】） | 3.3 | 4 | ・ 地域と一体となった安全教育が必要だと思う。 ・ より安全な地域にしていけるためにも青パト隊と学校の連携協力について研究を進めたい。 ・ 学校付近の信号のない横断歩道では、サポーターと一緒に横断するよう約束しているが、子どもたちが必ずサポーターを待ってくれているので助かっている。 ・ 主に下校時の見守りが大切であり、地域と協力して行うことが必要ではないかと思う。 |